

2023年4月17日

株式会社日立製作所

株式会社日立ビルシステム

先進のデザインとレジリエンス・デジタル機能を、より多くの建物へ 標準型エレベーターの新シリーズ「アーバンエース HF Plus」を販売開始



テレビCM出演中の俳優・堀田 真由さんと「アーバンエース HF Plus」の乗り場デザインイメージ(左)
「アーバンエース HF Plus」の乗りかご内デザインイメージ(右)

株式会社日立製作所(以下、日立)と株式会社日立ビルシステム(以下、日立ビルシステム)は、このたび、標準型エレベーター「アーバンエース HF(エイチエフ)」¹⁾の新シリーズとして、意匠デザインのバリエーション、災害に対するレジリエンス、利用者に安全・安心・快適を提供するデジタル機能、昇降行程・積載質量を強化(プラス)した「アーバンエース HF Plus(エイチエフ プラス)」を開発し、4月17日から日本国内で販売開始します。

2021年に販売開始した「アーバンエース HF」は、世界的なプロダクトデザイナーの深澤 直人氏が代表を務めるNAOTO FUKASAWA DESIGN LTD.監修による、従来の標準型エレベーターにはない、シンプルで上質なデザインが高く評価²⁾されています。

「アーバンエース HF Plus」は、有償付加(オプション)仕様などで選択できる意匠デザインのバリエーションを拡大するとともに、電気自動車からの給電で停電時のエレベーター利用を可能にするV2X³⁾システムや、顔認証でマンションのエントランス入場から居住階へのエレベーター移動までが可能になる「ダブルセキュリティ」など、最新のデジタルソリューションに「アーバンエース HF」同様に対応します。さらに、「アーバンエース HF」と比べて、最大昇降行程を+40mの100m、最大積載質量を+750kgの1,750kgに拡大し、先進のデザインと、災害に対するレジリエンス向上をはじめとするデジタル機能を、より多くの建物へ提供可能になります。

*1 2021年4月15日付ニュースリリース「ニューノーマル時代のスタンダードとなる安全・安心・快適を提供する標準型エレベーター新モデル『アーバンエース HF』を販売開始」

<https://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2021/04/0415.html>

*2 2021年10月20日付ニュースリリース「標準型エレベーター新モデル『アーバンエース HF』が『グッドデザイン賞』を受賞」

<https://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2021/10/1020e.html>

2022年1月4日付ニュースリリース「標準型エレベーター新モデル『アーバンエース HF』が第64回『十大新製品賞 日本力(にっぽんぶらんど)賞』を受賞」

https://www.hbs.co.jp/news/2022/20220104_02.html

2022年4月15日付ニュースリリース「標準型エレベーター新モデル『アーバンエース HF』が『iF DESIGN AWARD 2022』を受賞」

<https://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2022/04/0415.html>

*3 V2X(Vehicle to X)：自動車とさまざまなモノとの接続や相互連携を行う技術の総称。エネルギー分野においては、電気自動車と、住宅やビル、電力網(グリッド)などをつなぎ、電力の相互供給を行うことを可能にするV2Xシステムの実用化が進められています。

■「アーバンエース HF Plus」の特長

1. NAOOTO FUKASAWA DESIGN LTD.監修によるシンプルで上質なデザイン

統一感のある色調と凹凸の少ないフラットな乗りかご内空間、高い視認性を確保したボタンなど、「アーバンエース HF」で高く評価されている、シンプルの中に機能美を追求したデザインを継承するとともに、有償付加仕様などで選択できる意匠デザインのバリエーションを拡充しました。

(1) 乗り場の意匠デザインを刷新

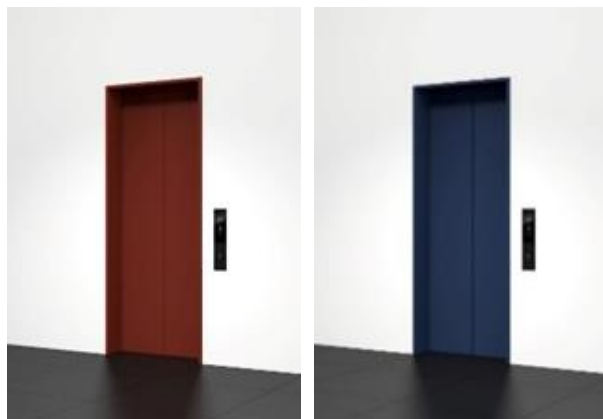
乗り場の戸と三方枠(戸の左右と上のフレーム)のバリエーションを刷新しました。新たに化粧鋼板を基本仕様として採用し、鋼板塗装と合わせて、バリエーションを11種類から14種類に拡充しました。

鋼板塗装については、最新の建築トレンドを踏まえ、「オリエントレッド」「コバルトブルー」の2色を新たにラインアップするとともに、反射を抑えた塗装(全ツヤから半ツヤに変更)にすることで、上質感を演出します。(有償付加仕様)

また、三方枠については、通常の枠幅160mmの大枠、枠幅50mmの小枠に加えて、枠幅20mmの「スマートフレーム」を選択いただけます。「スマートフレーム」は、フレームと戸を一体的に見せることができる最新の薄型三方枠で、建築意匠を最大限に生かした乗り場デザインを可能にします。(有償付加仕様)



化粧鋼板(左からグレイッシュホワイト、アルミナムシルバー、アドバンスブラック、グロッシーブラウン)の戸・三方枠を用いた乗り場デザインイメージ



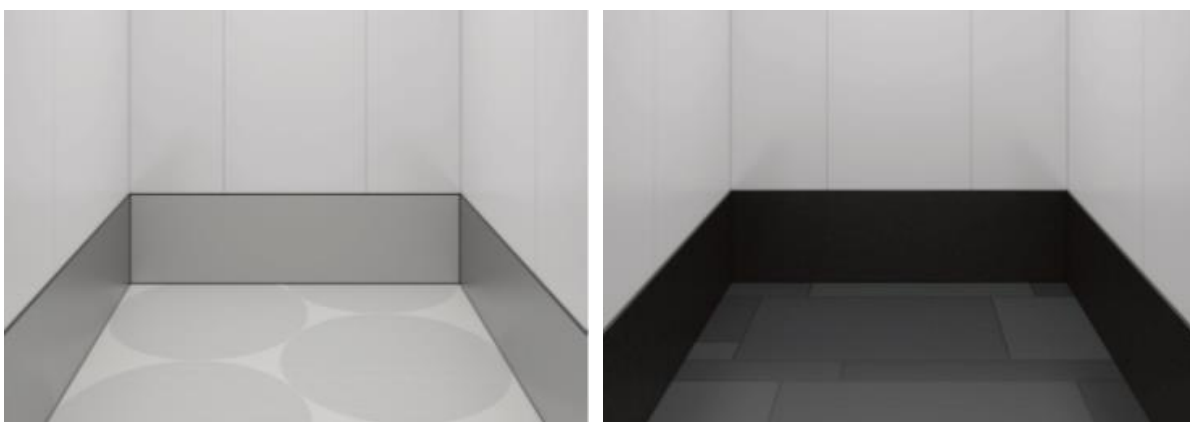
鋼板塗装の新色(左からオリエントレッド、コバルトブルー)の戸・三方枠を用いた乗り場デザインイメージ



「スマートフレーム」(左)と大枠の三方枠(右)の比較

(2)「デザインパネル」・「デザインマット」を一新

エレベーターのデザイン性を損なうことなく、壁と床を傷や汚れから守る「デザインパネル」および「デザインマット」のデザインを、「アーバンエース HF Plus」に合わせて一新しました。(有償付加仕様)



「デザインパネル」と「デザインマット」の組み合わせイメージ

(左：メタリックシルバー(パネル)/サークル(マット)、右：ブラック石目調(パネル)/ストーン(マット))

(3)「3D Design Simulator」*4で完成イメージを容易に作成、確認可能

エレベーターの完成イメージを Web 上で容易に作成、確認できる「3D Design Simulator(3次元デザインシミュレーター)」にて、「アーバンエース HF Plus」の乗りかご内や乗り場の仕様を一覧から選択し、実機を細部まで再現した3次元コンピューターグラフィック(3D CG)で確認することができます。

*4 2022年4月5日付ニュースリリース「エレベーターの完成イメージを Web 上で容易に作成、確認できる『3D Design Simulator』を開発」

<https://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2022/04/0405a.html>

2. 災害に対するレジリエンス向上

(1)電気自動車からの給電で停電時のエレベーター利用を可能にする V2X システムに対応

広域災害などによって停電となった場合に、ハイブリッド PCS*5 を使用してエレベーターの電源を電気自動車からの給電に切り替えるとともに、エレベーターを分速30mの低速運転に変更する制御を行う V2X システムに対応し、停電に対するレジリエンスを向上します。(有償付加仕様、定格積載質量 1,000Kg 以下に対応)



日立ビルシステムは、2022年にV2Xシステムを開発し、2023年6月の販売開始に向けて実証実験や仕様検討を推進*6しています。

*5 Hybrid-PCS(Hybrid Power Conditioning System) : 太陽光発電設備と蓄電池用の2つのPCS(直流交流交換装置)を一体化した装置。

*6 2022年5月23日付ニュースリリース「電気自動車からの給電で停電時のエレベーター継続利用を可能とするV2Xシステムの実証を開始」

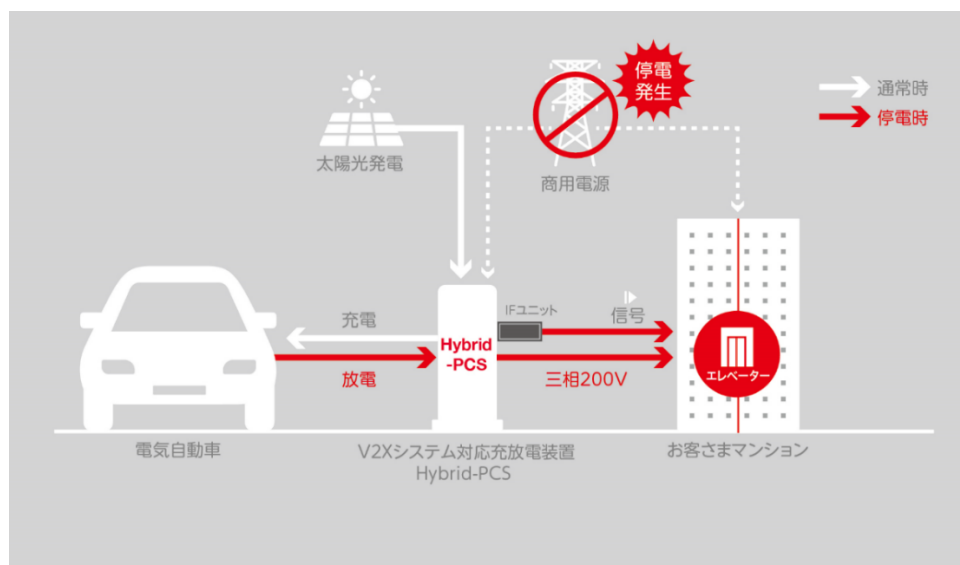
https://www.hbs.co.jp/news/2022/20220523_01.html

2023年1月27日付ニュースリリース「日産自動車と日立ビルシステムが、電気自動車からの給電で停電時のエレベーター利用を可能にするV2Xシステムの普及に向けて協創を開始」

https://www.hbs.co.jp/news/2023/20230127_01.html

2023年4月12日付ニュースリリース「日産自動車と日立ビルシステム、軽電気自動車『日産サクラ』からの給電で約15時間のエレベーター連続稼働を実証」

https://www.hbs.co.jp/news/2023/20230412_01.html



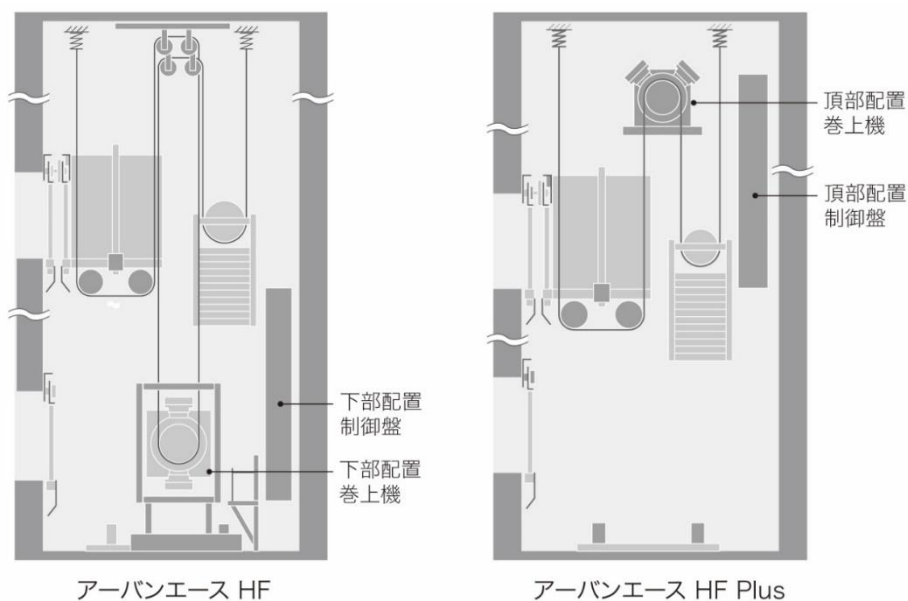
停電時の V2X システムによる給電の流れのイメージ

(2)制御盤・巻上機の頂部配置

「アーバンエース HF」では昇降路内の下部に配置していた制御盤および巻上機を、原則として頂部に配置する設計とし、豪雨発生時などの冠水リスクを最小化します。(基本仕様)

制御盤および巻上機を頂部に配置することにより、ロープ 1 本あたりの長さを短縮し、「アーバンエース HF」との比較で、ロープの総質量を最大 55%低減^{*7} することができ、環境負荷を低減します。

*7 昇降行程 60m の「アーバンエース HF」(制御盤・巻上機下部配置)と「アーバンエース HF Plus」(制御盤・巻上機頂部配置)の比較。



「アーバンエース HF」(左)と「アーバンエース HF Plus」(右)の制御盤・巻上機の配置比較イメージ

3. 安全・安心・快適を提供するデジタル機能の強化

(1)顔認証でエントランス入場とエレベーター移動をタッチレスで行える「ダブルセキュリティ」に対応

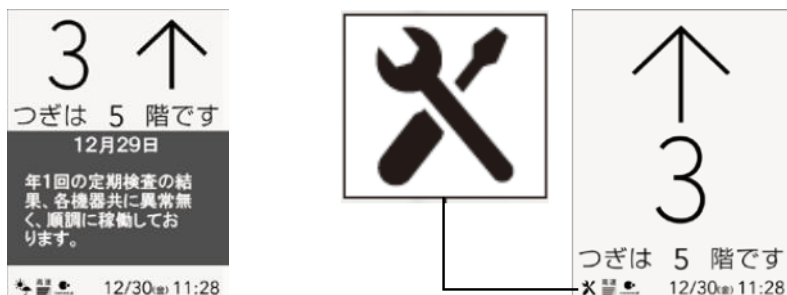
顔認証によって、エントランスのオートロックを解錠するとともに、自動でエレベーターを呼び出し、居住階への行先階登録が行える、最新のマンション向けセキュリティシステム「ダブルセキュリティ」に対応し、安全・安心・快適なマンション内のタッチレス移動を実現します。(有償付加仕様)

(2)エレベーター法定検査アラート機能の追加

法定検査が完了した際に、乗りかご内の液晶インジケータに情報表示^{*8} を行うことで、利用者に安心感を提供します。一定期間、検査未実施の項目^{*9} をエレベーター側で検出した場合には、インジケータにアイコンでお知らせします。(基本仕様)

*8 検査完了表示機能は、日立ビルシステムが検査作業を実施した場合に表示されます。表示内容は一例です。

*9 建築基準法第 12 条の定期検査報告制度による検査項目の中で、日立ビルシステム指定の一部項目となります。



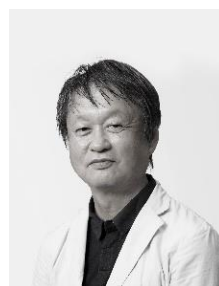
検査完了時のインジケータ表示^{*8}(左)、検査未実施項目がある場合のインジケータ表示(右)

4. 昇降行程・積載質量の拡大

2021年に販売開始した「アーバンエース HF」と比べて、最大昇降行程を+40mの100m、最大積載質量を+750kgの1,750kgに拡大し、従来、オーダー型のみで対応していたエレベーターの約3割が、標準型エレベーターで対応可能になります。

■プロダクトデザイナー・深澤 直人氏について

プロダクトデザイナー。1956年山梨県生まれ。1989年渡米しIDEOに勤務。1996年帰国後、IDEO東京支社設立。支社長として日本のデザインコンサルタントのベースをつくる。2003年独立し、NAOTO FUKASAWA DESIGNを設立。人の想いを可視化する静かで力のあるデザインに定評があり、国際的な企業のデザインを多数手がける。日用品や電子精密機器からモビリティ、家具、インテリア、建築に至るまで手がけるデザインの領域は幅広く多岐に渡る。デザインのみならず、その思想や表現などには国や領域を超えて高い評価を得ている。英国王室芸術協会の称号を授与されるなど受賞歴多数。2018年、「イサム・ノグチ賞」を受賞。多摩美術大学教授。日本民藝館館長。2022年4月、一般財団法人THE DESIGN SCIENCE FOUNDATIONを設立。



深澤 直人氏

■深澤 直人氏のコメント

公共のデザインがきれいになると人は幸せを感じるものです。シンプルなものほど技術的には作ることが難しくなります。シンプルで印象的な色や仕上げ、オプションが追加された「アーバンエース HF Plus」はアートのように美しいエレベーターです。

■「アーバンエース HF Plus」に関する仕様

製品名	用途	積載量(定員)	定格速度	販売価格
「アーバンエース HF Plus」	乗用 住宅用 寝台用 非常用	450kg~1,750kg (6人~26人)	分速45~105m	個別見積 ^{*10}

*10 参考見積価格：住宅用9人乗り、定格速度分速90m、停止箇所9カ所の場合、1,800万円程度。

■「アーバンエース HF Plus」の Web サイト

<https://www.hbs.co.jp/products/elevator/new/standard/ua/>

■関連 Web サイト

「デザインパネル」および「デザインマット」に関する Web サイト

<https://www.hbs.co.jp/products/elevator/design/>

「3D Design Simulator」

<https://www.hbs.co.jp/products/3dsimulator/popup.html>

「ダブルセキュリティ(顔認証)」に関する Web サイト

<https://www.hbs.co.jp/products/security/new-apartment/facial-recognition/>

日立ビルシステム テレビ CM「安心は、スピードだ。」篇

<https://www.youtube.com/watch?v=n5doJctI5eE>

■日立ビルシステムの Web サイト

<https://www.hbs.co.jp/index.html>

■日立ビルシステムブランドチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCfOgxcLRk3NHm2WrqHeQ6MA>

■日立ビルシステム エレメンちゃんねる

<https://www.hbs.co.jp/ad/elemen/>

■日立製作所について

日立は、データとテクノロジーでサステナブルな社会を実現する社会イノベーション事業を推進しています。金融・官公庁・自治体・通信向け IT サービスやお客さまの DX を支援する「デジタルシステム&サービス」、エネルギーや鉄道で脱炭素社会の実現に貢献する「グリーンエネルギー&モビリティ」、産業流通、水インフラ、ヘルスケア、家電・空調システム、計測分析システム、ビルシステムなどの幅広い領域でプロダクトをデジタルでつなぐ「コネクティブインダストリーズ」と、自動車・二輪車の分野で先進技術を提供する「オートモティブシステム」の事業体制のもと、IT や OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用する Lumada ソリューションを通じてお客さまや社会の課題を解決します。グリーン、デジタル、イノベーションを原動力に、お客さまとの協創で成長をめざします。2021 年度(2022 年 3 月期)の連結売上収益は 10 兆 2,646 億円、2022 年 3 月末時点で連結子会社は 853 社、全世界で約 37 万人の従業員を擁しています。

詳しくは、日立のウェブサイト(<https://www.hitachi.co.jp/>)をご覧ください。

■お問い合わせ先

株式会社日立ビルシステム カスタマーサポートセンター

電話：0120-7838-99(フリーダイヤル)

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
